

## 「金色の風」ASIAGAP 認証で差別化

分析結果を基に収量・品質の向上目指す



思わぬ記念品に笑顔の小野会長④

JAいわて平泉「金色の風」栽培研究会は1月22日、平成29年「金色の風」実績検討会と良食味米研修会を行いました。協議に先立ちJAの伊藤龍治専務から「金色の風」生産者に記念品が贈られ、ご労苦をねぎらいました。

29年産米の栽培履歴を基に栽培実績を分析し、佐藤千秋上席普及員は「倒伏程度は5月24日以降の移植で高くなる傾向が見られたが窒素施肥量との関係は判然しなかった。単収を向上させるためには土壌改良が重要である」と報告しました。

JAいわて平泉「金色の風」栽培研究会の小野正一会長は「他品種に埋もれることなく、ASIAGAP認証を前面に出し差別化を図りながら取り組んでいきたい」と意欲を示しました。

30年産の「金色の風」は県内で200畝の作付けを予定しており、管内ではその内約61畝を24人が担い、さらなるブランドの確立を目指します。